



市史のつくりかた ~「古代・中世資料編」~

1冊の「市史」が刊行されるまでには、たくさんの作業工程があり、多くの時間と労力を要します。また、時代や分野によっても、作業工程は少しずつ異なります。ここでは、「古代・中世資料編」を例に、刊行までの長いみちのりを紹介します。

用語の解説

板碑

「いたび」と読みます。中世におもに関東地方でたくさんつくられた供養塔のひとつです。青石とよばれる緑泥片岩を素材としています。当時の信仰の様子がわかります。



収集

「古代・中世資料編」は、概ね奈良・平安時代から戦国時代ころまでの資料を掲載します。古代・中世部会で立てられた資料の収集計画を基に、資料の収集からスタートします。対象とする資料は、古文書・古記録などの文字資料の他、板碑などの石造物や考古資料まで多岐にわたります。

✓ 刊行資料からの収集

近隣の市町村史や史料集など既刊の資料の中から、関連する資料をあつめます。→図書館など

✓ 未刊行資料の収集

史料集などに掲載されていない資料でも、写真やマイクロフィルムがあればあつめます。→文書館・資料館・大学など

✓ 地域からの収集

地域の社寺、旧家などに眠る未発見資料を探します。板碑や考古資料も収集します。→資料館・神社・寺院・旧家など

整理

収集した資料は、1点ずつカード化し、重複の確認や、調査へむけた分類・整理をします。

✓ 資料カードの作成

資料カードには、文書形態・由緒・伝存状態などの資料情報を詳細に記録していきます。



✓ 目録の作成

資料カードの情報をもとに、資料の目録を作ります。

調査

収集した資料には、漢文やくずし字で書かれているものがあります。これらの資料は、編集委員や調査員が判読し、意味や書かれている内容を検討します。

✓ 原本の調査

活字や写真などで判読できない文字や虫喰い、墨痕、紙の継ぎ目などは、原本で細部まで確認します。

✓ 現地での調査

古地図や地籍図を手に、資料に登場した地名や地形などを実際に現地へ行って調べます。また、寺社の石造物調査や、地域のお年寄りからも聞き取り調査を行います。

✓ 研究会を開く

古代・中世部会で研究会を開き、調査結果の検証をします。重要な成果は、「調査報告書」や市史編さん事業関連講演会などでいち早くお伝えします。

編集・印刷

「古代・中世資料編」として刊行するため、収集した資料の選定・編集を行います。

✓ 編集会議

調査成果をもとに掲載する資料の選定を行い、掲載の方法や内容を検討して、頁数や原稿の分担を決定します。

✓ 掲載資料の撮影

掲載する資料の写真撮影を行います。(収集・調査段階で撮影してしまう場合も多いです。)

✓ 原稿の執筆

編集委員は、担当する原稿の執筆を行います。(まさに正念場!)

✓ 完成!

完成した原稿は、編集・校正作業を経て印刷され、「古代・中世資料編」として刊行されます。刊行は平成31(2019)年度を予定しています。乞うご期待!